

土砂災害

集中豪雨が頻繁に起こる季節です。被害を最小限にするため、日ごろから身の回りや地域でできる防災対策を準備しておきましょう。

風水害

大雨警報が出たら...

- ラジオやテレビで情報確認
- 懐中電灯や携帯ラジオの用意
- 避難場所、経路の再確認
- 3日間程度生活できる飲料水(約9リットル)と食料の確保
- 危険を感じたら、すぐ避難
- 詳細はホームページでも紹介
- <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/soumu/>



写真提供 津山朝日新聞社

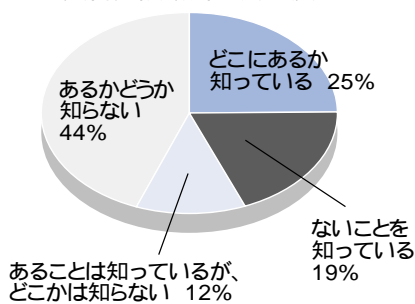
あなたの防災対策

梅雨です。大丈夫ですか？

日ごろの防災意識が大切

いざ「災害だ!」というとき、落ち着いて行動できませんか? 「自宅周辺で災害時に危険な場所があることを知っている」「防災訓練に参加または見学したことがある」という人は、それぞれ国民の半数弱となっています。これは人々の防災意識の低さをあらわしています。日ごろから心の防災準備が大切です。

居住地にある災害危険場所の周知度



資料:内閣府「防災に関する世論調査(平成14年9月)」

土砂災害の危険地域の確認を

もし自宅が土砂災害の恐れのある危険な場所にあつたら? 県の調査によると、市内では、土砂災害の恐れのある区域が120か所、土石流発生のおそれのある区域が100か所確認されています。調査結果は市総務課(市役所3階)で閲覧できます。市では、この調査結果をもとに今後指針を策定し、土砂災害警戒区域などを指定する予定です。

動き出した自主防災

阪神淡路大震災のとき被害を最小限に抑えた地域がありました。地域の人々が協力し、倒壊した家屋の中から多くの命を救出したのです。その原動力は、人々が災害時に結束し、助け合う訓練を以前から行っていた自主防災組織でした。このことを教訓に、市でも自主防災組織の結成に向けた動きが出ています。

自主防災組織結成のお願い

現在、市内には町内会単位での自主防災組織が15団体あります。市では、災害救助工具セット、啓発資料、防災訓練時の備養食料を支給し、自主防災組織の結成を支援しています。



河辺井ノ口防災会 昨年、町内会を中心に結成した自主防災組織です。運動会での人工呼吸や消火器の講習、敬老会での講演、炊き出し訓練など、地域の防災意識を高める活動を行っています。「あらゆる機会をとらえて災害の未然防止に努めたい」と同会長の神尾治夫さんは話しています。

防災についてのお問い合わせは、市総務課 22 1190へどうぞ。